

# 答 辞

四季の変化が著しくも美しくもある富山の地において、厳しい冬に耐えた植物が一斉に芽吹き始めました。今日ここに、このような盛大な「卒業証書授与式」を挙行していただき、卒業生一同、心より感謝しております。

この職藝学院は、単に大工と庭師の学校ではありません。日本の建築家屋や庭には宗教・思想的な歴史背景と変遷があり、自然環境にも適合していることを私たちは学びます。そして、植物の生態系を知り造園に活かすことを学びます。さらにこの学院は、県内の古い建築物と庭を修復し、文化財の保護にも貢献しています。私がこの学院に入学を決めた理由でもあります。

良い庭を造るには、石を知り、植物を知り、土を知り、それらを活かすための職人としての技術の習得が必要です。これらを座学と実習の両輪のカリキュラムで、二年間学ばせて頂きました。

特に個人邸での剪定・雪吊り・作庭は、実践経験の場として大変貴重でした。お客様との対話も楽しく、職人として、技術だけではなくコミュニケーションの重要性を改めて認識しました。

習得した技術と知識を試す機会として、合科ワークショップの建物と庭、職藝祭の庭、進級・卒業制作の庭を仲間と設計・製作しました。自分が造りたい庭とはどんな庭かと悩み、イメージを図面化できないもどかしさを感じ、協同作業の難しさと楽しさ・完成したときの喜びを皆で味わうなど、世代を越えてこの学院で学べて幸せでした。一方で、自分の未熟さも実感し、もっと学びたいと新たな意欲も湧いてきます。

忘れられない思い出として、京都への研修旅行があります。夢窓国師、小堀遠州、小川治兵衛など各時代を代表する作庭家の名園を巡りました。座学での予備知識もあり、単なる京都観光では得られない鑑賞眼を少し養うことができました。

この職藝学院で学んだ私たちの想いは様々で、卒業後も就職または研究科進学と分かれますが、二年間ここで学んだことと経験は新たな人生の糧となります。

この二年間、厳しくも暖かくご指導して下さいました先生方及び学院関係者の皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。そして、共に学んだ学生仲間と、支え応援してくれた私たちの家族に感謝致します。

最後になりましたが、本日ご列席のご来賓各位、並びに諸先生方、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます、答辞といたします。

平成二十七年三月二十日

職藝学院 環境職藝科

卒業生代表

高 田 和 夫